

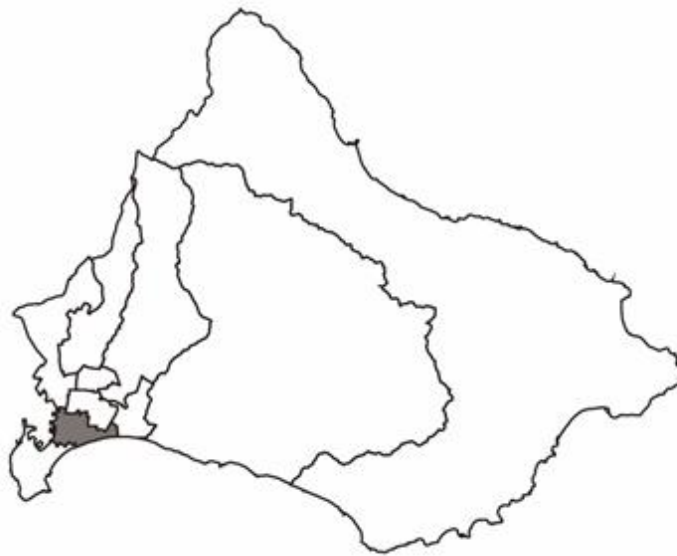
函館市地域包括支援センターこん中央

(地域包括支援センター運営業務)

令和7年度（2025年度）活動評価

令和8年度（2026年度）活動計画

中央部第1圏域



— 目 次 —

1. 圏域の現状と課題	・ ・ ・	1
2. 重点活動	・ ・ ・	4
3. 令和7年度活動評価および令和8年度活動計画		
ア 地域包括支援センターの運営	・ ・ ・	6
(ア) 総合相談支援業務	・ ・ ・	6
(イ) 権利擁護業務	・ ・ ・	12
(ウ) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	・ ・ ・	16
(エ) 地域ケア会議推進事業	・ ・ ・	20
イ 生活支援体制整備事業	・ ・ ・	26
(ア) 第2層生活支援コーディネーター業務	・ ・ ・	26
ウ 認知症総合支援事業	・ ・ ・	40
(ア) 認知症初期集中支援推進事業	・ ・ ・	40
(イ) 認知症地域支援・ケア向上事業	・ ・ ・	40

圏 域 の 現 状 と 課 題

1. 人口の推移と年齢構成

(人)

	R3.3	R4.3	R5.3	R6.3	R7.3	R7.9	割合	全市
年少人口	1,803	1,731	1,641	1,555	1,444	1,392	6.9%	8.4%
生産年齢人口	11,812	11,666	11,434	11,210	11,341	10,940	54.1%	54.1%
高齢人口	8,670	8,508	8,308	8,088	7,925	7,889	39.0%	37.5%
65～74歳	4,021	3,903	3,653	3,411	3,178	3,093	15.3%	15.6%
75歳以上	4,649	4,605	4,655	4,677	4,747	4,796	23.7%	21.9%

2. 世帯構成 (R7.9)

(世帯)

	世帯数	割合	全市
高齢者単身世帯	4,139	31.5%	27.3%
高齢者複数世帯	1,275	9.7%	12.9%
その他	7,708	58.8%	59.8%

3. 事業対象者・要支援認定者の状況

(人)

	R6.9	R7.9	全市
認定者数	733	720	7,676
認定率	9.2%	9.1%	8.8%
給付実績	455	434	4,198
給付率	5.7%	5.5%	4.8%

4. 介護保険サービス事業所数 (R7.9)

(件)

	事業所数
居宅介護支援等 (※1)	14
地域密着型サービス (※2)	15

※1 居宅介護支援・小規模多機能型居宅介護・看護小規模多機能型居宅介護事業所の件数

※2 地域密着型サービス事業所（小規模多機能型居宅介護・看護小規模多機能型居宅介護を除く）の件数

5. 地域環境と医療・福祉・教育等機関

①圏域の地域環境

函館市中央部に位置し、東西に函館湾と津軽海峡（大森浜）、圏域中央に亀田川が流れる。海拔2～12Mにあり、勾配はなだらかで比較的平坦な地形である。国道5号線・八幡通り・高砂通り・漁火通り等の主要道路の他、路面電車が通り、交通の便は比較的良い。反面、広路の多さが生活に影響し、外出機会の減少の要因になっている。

函館駅周辺の朝市商店街・ホテル群エリア、金堀町や広野町、日乃出町にある団地群、千代台公園や総合福祉センター等の市内全域の住民が利用する公共施設がある。

学校の統廃合による校区拡大により、児童、生徒の通学時の安全確保が課題になっている。

②医療機関数

(件)

病院	3（一般病床、地域包括ケア病床、療養病床、緩和ケア病床）
診療所	17（内科6、整形外科1、皮膚科1、歯科6）

③地域組織

(団体)

町内会、自治会	19（内、自治会1）	老人クラブ	4
民生児童委員協議会	4		

④保育・教育機関数

(園,校)

認定こども園、保育所、幼稚園	7	小学校	4
中学校	1	専門学校	1

⑤公園・公共施設等

(施設)

公園、緑地	20
社会教育関係施設	13 (総合福祉センター、青年センター、児童館2、図書館、競輪場、スポーツ施設6)

⑥福祉施設

(施設)

障がい者福祉施設	指定就労移行支援事業所1、指定就労継続支援事業所（B型）15 指定生活介護事業所2、指定短期入所事業所2 指定共同生活援助事業所5、指定一般/特定相談支援事業所3 指定児童発達支援事業所3、指定放課後等デイサービス事業所2、 保育所等訪問支援事業所2、障害児相談支援事業所3
救護施設	明和園
母子生活支援施設等	母子家庭等就業・自立支援センター、高砂母子ホーム無料職業 相談所、高砂母子ホーム

6. 高齢者の健康・社会参加等の状況

- ・圏域内の健康づくり教室（以下、「元気サロン」という。）は、7サロンが活動を継続しているが、参加者が増えない、リーダーの担い手不足等課題が残されたままの活動となった。各元気サロンの参加者の中には、健康に関する意識が高く、積極的にサロン活動に参加している人もいたため、サロン活動を維持できることは地域全体の課題と捉え、各元気サロン参加者が集まり地域ケア会議を開催した。お互いの活動内容の紹介やサロン活動を継続することによる効果の再確認等、今後サロン活動を継続するための意欲向上の機会となったと考えられる。
- ・総合相談の中で、「外出の機会が少ない」、「人と交流の機会を持ちたい」といった介護予防に関する相談を多数受けるが、高齢者の中には元気サロンや町会行事等が行われていること自体知らない人もいたことがわかった。介護保険サービス以外の社会参加の場を知り、介護予防のための選択肢を多く持てることは重要と考える。そのためには、高齢者や地域住民だけではなく、高齢者の支援に関わるケアマネジャーや介護保険サービス事業所等も地域で行われる活動を知ること、情報が多く発信され、より広く周知されることが期待できる。
- ・小学校区に住む地域住民とともに立ち上げた、中部カフェ企画委員会（メンバーは、地域住民、学校PTA、障害サービス事業所、警察、地域包括支援センター（以下、「センター」という。）職員で構成）が主体となり、世代を問わない集いの場を企画した。この委員会は、令和5年度から始めているが、令和7年度は趣旨に賛同した大学生や地域住民のメンバーが新たに加わり協力者は増えている。しかし、世代を問わない多世代交流を目的としたこの集いの場について、チラシを作成し周知活動に努めているが、高齢者の参加率が低い傾向にあることから、令和8年度は、多くの高齢者が参加する、社会参加や孤立予防の機会としていきたい。

7. 地域からの相談状況について

- ・総合相談では、認知症に関する内容が多いが、認知症の発症から相談に至るまでの時間が一定程度経過したことにより、支援に関わる家族等の負担が大きくなっている状況が見られる。その背景には、「本人が認知症であることを受け入れられない」、「家族の理解不足」、「専門医の受診に躊躇する」等様々な理由がある。この状況を改善するためには、認知症の人を支援する家族や本人が、認知症に関する正しい知識を持ち、早期相談や早期治療につながる必要がある。
- ・介護保険に関する相談に加え、生活や健康に関する相談が増えている。特に、身寄りがないことで想定される様々な問題に不安を抱え、生活している人が多いと考えられる。

8. 日常生活圏域レベルの地域課題の整理に基づく地域課題

優先順位	地域の問題	問題が生じている要因	地域課題
1	認知症の相談に至るまでに時間がかかった世帯は支援が困難になっている	世帯の認知症への理解不足/本人が認知症であることを認めたくない家族がいる/専門医への受診を躊躇する/本人の了承がないと相談できないと思っている/家族が本人の状況改善を諦めている/手に負えない状況になってから支援を求める/何を相談したら良いかわからない/センターの支援方法を知らない/認知症カフェを知らない	認知症の人を支える家族が、認知症の知識（病気の経過、接し方等）を得ることができる
2	今後の生活や健康等に不安を抱えている高齢者が増えている	身寄りがない/利用できる制度を知らない/相談する人がいない/相談先がわからない/病気があり、健康管理に不安がある/何から手をつけたら良いかわからない/年齢が離れた家族、障害のある家族がいる（高齢者本人ではなく、家族の今後の生活が不安な人もいる）	地域住民が、生活、健康等に関する相談先を知ることができる
3	地域住民が、住民主体の助け合い活動の参加につながらない	情報を知る機会がない/外出、交流機会がなく、活動に気づけない/町会、地域活動の縮小化/民生委員や町会、在宅福祉委員等（以下、「地域支援者」という。）の減少/地域支援者、ケアマネジャー、介護保険事業所が住民主体の助け合い活動を知らないため情報発信ができない/地域支援者の地域住民を見守る機会が減少/活動の不定期開催/活動に興味がなく、参加する必要性を感じていない（特に男性）	地域住民、地域支援者が住民主体の助け合い活動を知ることができる
4	ケアマネジャーの介護予防（健康領域）に関するアセスメントが不足している	受診や服薬管理状況について記載してあると良いと思っている/現病歴、既往歴を踏まえ、将来の健康状態を予測できていない/健康管理ができていない場合はケアプランに記載しない/健康領域内に問題がある対象者にも関わらず、問題として捉えない、または記載しない/住民主体の助け合い活動を知らない	ケアマネジャーが介護予防（健康領域）を意識したケアプランを立案できる

重 点 活 動

番号	地域課題	各業務での取組
1	認知症の人を支える家族が、認知症の知識（病気の経過、接し方等）を知ることができる	認知症の人を支える家族（子ども含む）や本人に対し認知症カフェや認知症サポーター養成講座への参加を促す/小学校、中学校へ認知症サポーター養成講座の開催を打診する/広報紙へ認知症に関する話題を毎回掲載する/地域住民へ認知症ケアパスを周知、配布する/地域住民を対象に、認知症をテーマにした出前講座を行う
2	地域住民が、生活、健康等に関する相談先を知ることができる	成年後見制度や法テラス等の情報、センターへ入る相談内容を広報紙に掲載し、周知する/民生委員が把握している高齢者の不安を共有し、対応方法を検討する地域ケア会議を開催する/新任の民生委員に向けて、相談先や利用できる制度等の周知を行う/地域住民へ、生活や健康に関する相談先の周知を行う
3	地域住民、地域支援者が住民主体の助け合い活動を知ることができる	地域住民、地域支援者へ地域の行事、サロン活動について情報提供を行い、総合相談時に参加を提案する/地域密着型事業所の運営推進会議に参加した際に、可能な範囲で地域の行事やサロン活動等の情報提供を行う/担当者会議開催時に介護保険事業所へ地域の行事、サロン活動等の情報提供を行う/各サロン活動一覧を作成、配布する
4	ケアマネジャーが介護予防（健康領域）を意識したケアプランを立案できる	ケアマネジャーを対象に研修会を開催する/ケアマネジャーへサロン活動、認知症カフェ、認知症サポーター養成講座について情報提供を行う

令和7年度活動評価および令和8年度活動計画

ア 地域包括支援センターの運営

(ア) 総合相談支援業務

【根拠法令】介護保険法第115条の45第2項第1号

【目 的】地域の高齢者等が住み慣れた地域で安心してその人らしい生活を継続していくことができるよう、地域における関係者とのネットワークを構築するとともに、高齢者等の心身の状況や生活実態、必要な支援等を幅広く把握し、相談を受け、地域における適切な保健・医療・福祉サービス、関係機関または制度の利用につなげる等の支援を行う。

事業内容

総合相談支援業務

令和7年度活動評価

実績（実施回数、内容、実施方法等）

活動目標に対する評価

○利用者基本情報作成状況

(件・人)

	R5年度	R6年度	R7年度
目標数値	715	675	686
作成数	予防給付	165	164
	うち新規	31	20
	見守り	90	114
	うち新規	55	62
	その他	511	499
	うち新規	248	257
合計(A)	766	777	697
うち新規	334	339	320
高齢者人口(B)	8,088	7,925	7,803
実態把握率 (A/B)	9.5%	9.8%	8.9%

○総合相談対応件数

(件)

	R5年度	R6年度	R7年度
実件数	1,092	942	1,192
延件数	1,909	1,582	1,724

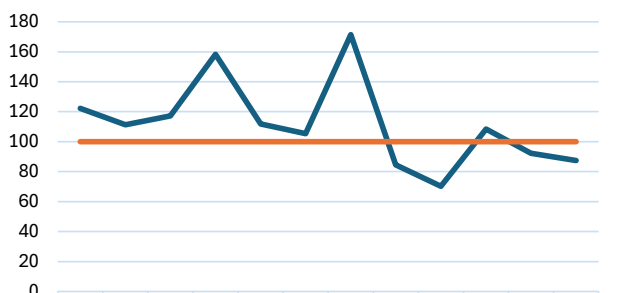
○相談形態内訳（延）

(件)

	R5年度	R6年度	R7年度
電話相談	741	622	662
来所相談	99	92	101
訪問相談	972	815	889
その他	97	53	72

○相談者続柄別相談数（実）の前年比割合

(%)



本人	家族親族	民生委員	町会・在宅福祉委員	知人・近隣住民	介護支援専門員	介護保険事業所職員	医療機関	行政機関職員	警察・消防署職員	民間企業	その他
----	------	------	-----------	---------	---------	-----------	------	--------	----------	------	-----

【活動目標】

地域住民が支援の必要な状況について、相談機関へ発信することができる

【評価】

- 市営住宅や高齢者の立ち寄り先、高齢者宅を訪問する機関、多世代に関わる機関に広報紙の配布を継続した。また、広報紙の新規配布先を増やし、センターに関する周知の強化に努めた。
- 民生委員と共に訪問した市営住宅の対象者は、支援が無くても自立した生活を送れる人や生活支援課の担当ケースワーカーとつながりがある人、近隣住民との交流がある人であることがわかった。
- 過去に見守りネットワーク事業で訪問した人からの相談件数について集計した。1割にも満たなかったが、見守りネットワーク事業を通して相談に至る人があることを把握できた。見守りネットワーク事業は、センターを知る効果的な機会と考えられる。
- 以上より、本人や家族親族等および地域支援者からの相談件数や地域支援者からセンターを紹介され相談に至った件数は令和6年度より増加した。そのため、目標は達成したと評価する。
- 本人や家族親族からの相談件数は増加したものの、認知症に関することは相談に至るまでに時間がかかっているケースが多かった。その要因として、本人や家族の認知症に対する理解が不足していること、相談先がわからないこと、相談のタイミングがわからないこと等が考えられる。また、地域支援者の活動により、センターを知り、相談に至るケースは増加しているが、新任者の増加、見守り体制が整っていないことにより地域支援者が高齢者の実態を掴みにくくなっている現状がある。

令和8年度は、センターについて継続的に周知することに加え、増加傾向にある認知症の相談を早期に行うことができるよう、地域住民や地域支援者に対して正しい知識の周知が必要と考える。

令和 8 年度 活動計画		
活動目標	計 画	評価指標
認知症に関して早期に相談できる地域住民が増える	1 総合相談支援業務に関する広報・啓発 ①広報紙・リーフレットの発行、配布（年3回発行） 1) 広報紙の内容 ・福祉拠点としてのセンターの機能、役割 ・高齢者総合相談について ・介護保険制度、高齢者福祉サービス、心身の健康、介護予防等 ・認知症の理解、関わり方、支援等(毎回掲載する) ・地域住民に広報紙を手にとってもらえるように、センターの活動等が伝わる内容とする。 2) 広報紙等の配布方法 ・高齢者が立ち寄る先や高齢者宅を訪問する機関に設置継続 町会館、民生児童委員協議会(以下、「民児協」という。)、医療機関、薬局、公共施設、金融機関、スーパーマーケット、コンビニエンスストア、ドラッグストア、個人商店、美容室等 ・多様な機関への設置継続 小中学校、更生保護関係機関、障害サービス事業所等 ・認知症ガイドブック(認知症ケアパス)、認知症サポーター養成講座や認知症カフェの開催についてリーフレットやチラシを広報紙と共に配布する。 ②SNSでの発信 ・センターの実施する事業等について掲載する。 ③出前講座の開催 ・地域住民、関係機関を対象に出前講座、認知症カフェ、認知症サポーター養成講座を開催する。 2 支援が必要な（または、必要となり得る）高齢者の実態把握 ・訪問、来所等による相談受理時は、対象者だけではなく同居家族についても情報収集し、世帯単位で実態把握を行う。 ・見守りネットワーク事業の訪問による実態把握では、対象者へ広報紙を配布し、センターについての広報を行う。 ・地域支援者と地域の活動状況等に関して懇談を行う中で、気になる高齢者はいないか声掛けを行い、相談につなげる。 ・相談受付時には、相談者がどのようにセンターのことを知り、相談に至ったのか聞き取りを行う。 ・認知症の人を支える家族へ、認知症カフェや認知症サポーター養成講座について情報提供し、参加を促す。	・住民に対する広報、啓発回数 ・広報紙発行回数 ・出前講座、講師派遣回数 ・センターの把握経路 ・相談対応件数 ・相談者の続柄内訳 ・相談者別相談数と前年比割合 ・相談受理時のケースの状況

(ア) 総合相談支援業務

事業内容	令和7年度 活動評価																																																					
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価																																																				
総合相談 支援業務	○相談者の続柄内訳（延・重複あり） （件） <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R5年度</th> <th>R6年度</th> <th>R7年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本人</td> <td>788</td> <td>663</td> <td>811</td> </tr> <tr> <td>家族親族</td> <td>831</td> <td>655</td> <td>729</td> </tr> <tr> <td>民生委員</td> <td>68</td> <td>35</td> <td>41</td> </tr> <tr> <td>町会・在宅福祉委員</td> <td>16</td> <td>12</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>知人・近隣住民</td> <td>33</td> <td>34</td> <td>38</td> </tr> <tr> <td>介護支援専門員</td> <td>252</td> <td>166</td> <td>175</td> </tr> <tr> <td>介護保険事業所職員</td> <td>46</td> <td>21</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td>医療機関</td> <td>151</td> <td>130</td> <td>110</td> </tr> <tr> <td>行政機関職員</td> <td>101</td> <td>84</td> <td>59</td> </tr> <tr> <td>警察・消防署職員</td> <td>14</td> <td>12</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>民間企業</td> <td>14</td> <td>13</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>49</td> <td>64</td> <td>56</td> </tr> </tbody> </table>		R5年度	R6年度	R7年度	本人	788	663	811	家族親族	831	655	729	民生委員	68	35	41	町会・在宅福祉委員	16	12	19	知人・近隣住民	33	34	38	介護支援専門員	252	166	175	介護保険事業所職員	46	21	36	医療機関	151	130	110	行政機関職員	101	84	59	警察・消防署職員	14	12	13	民間企業	14	13	12	その他	49	64	56	
		R5年度	R6年度	R7年度																																																		
	本人	788	663	811																																																		
	家族親族	831	655	729																																																		
	民生委員	68	35	41																																																		
	町会・在宅福祉委員	16	12	19																																																		
	知人・近隣住民	33	34	38																																																		
	介護支援専門員	252	166	175																																																		
	介護保険事業所職員	46	21	36																																																		
	医療機関	151	130	110																																																		
行政機関職員	101	84	59																																																			
警察・消防署職員	14	12	13																																																			
民間企業	14	13	12																																																			
その他	49	64	56																																																			
○相談者のセンター把握経路 （件） <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R5年度</th> <th>R6年度</th> <th>R7年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>行政</td> <td>48</td> <td>48</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>民生委員、町会、在宅福祉委員</td> <td>6</td> <td>3</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>医療機関等</td> <td>35</td> <td>36</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>友人、知人、近隣等</td> <td>11</td> <td>16</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>広報紙、ポスター</td> <td>11</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>インターネット関係</td> <td>10</td> <td>12</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>以前から関わり有り</td> <td>153</td> <td>169</td> <td>161</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>97</td> <td>56</td> <td>83</td> </tr> </tbody> </table> ※「以前から関わりあり」のうち、「見守りネットワーク事業での関わり」は24件		R5年度	R6年度	R7年度	行政	48	48	29	民生委員、町会、在宅福祉委員	6	3	7	医療機関等	35	36	32	友人、知人、近隣等	11	16	6	広報紙、ポスター	11	4	5	インターネット関係	10	12	7	以前から関わり有り	153	169	161	その他	97	56	83																		
	R5年度	R6年度	R7年度																																																			
行政	48	48	29																																																			
民生委員、町会、在宅福祉委員	6	3	7																																																			
医療機関等	35	36	32																																																			
友人、知人、近隣等	11	16	6																																																			
広報紙、ポスター	11	4	5																																																			
インターネット関係	10	12	7																																																			
以前から関わり有り	153	169	161																																																			
その他	97	56	83																																																			
○住民に対する広報・啓発回数 （回） <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R5年度</th> <th>R6年度</th> <th>R7年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広報紙の発行</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>リーフレット等配布</td> <td>13</td> <td>7</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>出前講座・講師派遣</td> <td>18</td> <td>6</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>認知症サポーター養成講座</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>		R5年度	R6年度	R7年度	広報紙の発行	3	3	3	リーフレット等配布	13	7	15	出前講座・講師派遣	18	6	8	認知症サポーター養成講座	3	3	2																																		
	R5年度	R6年度	R7年度																																																			
広報紙の発行	3	3	3																																																			
リーフレット等配布	13	7	15																																																			
出前講座・講師派遣	18	6	8																																																			
認知症サポーター養成講座	3	3	2																																																			
○広報紙等の配布先 （件） <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R5年度</th> <th>R6年度</th> <th>R7年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>配布機関数</td> <td>156</td> <td>155</td> <td>156</td> </tr> <tr> <td>（再）新規機関数</td> <td>6</td> <td>3</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table> ※令和7年9月 市営住宅へ民生委員と訪問 （令和5年度に広報紙全戸配布した市営住宅を対象に 対象者を抽出し、令和7年度も実施）		R5年度	R6年度	R7年度	配布機関数	156	155	156	（再）新規機関数	6	3	8																																										
	R5年度	R6年度	R7年度																																																			
配布機関数	156	155	156																																																			
（再）新規機関数	6	3	8																																																			
○懇談を行った機関 [中部小学校、中部小学校地域コーディネーター 大森浜小学校地域コーディネーター、松川町会 大門学生祭実行委員、侑愛会、大森浜児童館 防災士M氏、防災マスターK氏 的場町在宅福祉委員会]																																																						

令和 8 年度 活動計画		
活動目標	計 画	評価指標

(ア) 総合相談支援業務

		令和7年度 活動評価				
事業内容		実績（実施回数、内容、実施方法等）			活動目標に対する評価	
総合相談 支援業務	○相談内容内訳（延・重複あり）					【活動目標】 センター職員が介護予防につながる生活習慣に関する知識を深めることができる 【評 価】 ・定例ミーティング時に健康や生活習慣に関する研修会を開催し、知識の習得や相談対応時における活用方法を学び、介護予防に対する意識向上の機会となった。 ・「介護予防」について計上方法を再確認し、日頃から介護予防に関する相談対応をしていたことを改めて把握することができた。 ・令和7年度は、改めて「介護予防」に関して意識的に活動し、結果相談件数も増加したことから、目標としては達成したと評価する。しかし、相談件数は少ない状況が続いていることから、引き続き、対象者がより自身の介護予防を意識できるよう、相談対応に取り組んでいく。
			(件)			
		R5年度	R6年度	R7年度		
	介護保険・総合事業	1,450	1,208	1,282		
	保健福祉サービス	207	183	202		
	介護予防	21	18	33		
	心身の健康	130	65	126		
	認知症	146	114	125		
	住まい	93	80	105		
	権利擁護	75	60	78		
	安否確認	23	16	24		
	その他	34	79	88		
	○セルフマネジメント実施件数					
			(件)			
		R5年度	R6年度	R7年度		
	実施件数	7	5	2		
	○センター内研修実施状況					
	・実施件数…9回					
	・研修内容					
	①有酸素運動と介護予防（効果、留意点）					
	②入浴と睡眠の関係（効果、入浴方法）					
	③健康に配慮した飲酒（飲酒量の目安・把握方法、留意点 高齢期の飲酒）					
	④運動と家事の関係（非運動性熱産生とは、METsの捉え方 留意点）					
	⑤睡眠と寝具の関係（寝具の選び方）					
	⑥中途覚醒（基本構造、要因、対応方法）					
	⑦禁煙（効果、意義、健康改善）					
	⑧脂質の理解（種類、選び方、観察項目）					
	⑨歯みがき（目的、全身への影響、方法）					

令和8年度 活動計画		
活動目標	計 画	評価指標
センター職員が介護予防に着目した相談対応ができる	1 介護予防に着目した相談対応 - 対象者の介護予防の観点から課題がある場合、相談として捉えられるよう、セルフマネジメントツールを活用等する。セルフマネジメントツールの活用に至らなくても、介護予防に関する情報提供を行う等対応する。対象者に介護予防の観点で課題がないか、意識的に情報収集を行い、アセスメントをする。 - 介護予防に関する研修会へ参加し、知識を身につけ、フレイル状態に気づくことができるようにする。研修に参加していない職員へは朝礼等で伝達し、センター全体でスキルアップを図る。	- 相談内容内訳 - 情報提供内容 - セルフマネジメントツールの実施回数 - 研修への参加状況、内容、参加した職員の反応

(イ) 権利擁護業務

【根拠法令】介護保険法第115条の45第2項第2号

【目的】高齢者等が地域において尊厳のある生活を維持し、安心して生活を行うことができるよう、専門的・継続的な視点から、高齢者等の権利擁護のため、必要な支援を行う。

事業内容	令和7年度 活動評価			
	実績（実施回数、内容、実施方法等）		活動目標に対する評価	
権利擁護業務	○権利擁護相談対応状況		【活動目標】	
	①対応件数		センター内の多職種が相談し合い、権利擁護ケース対応を行うことができる	
	(件)		【評価】	
		R5年度	R6年度	R7年度
	ケース数（実）	44	52	46
	②対応事案内訳（実・重複あり）		・スキルアップの機会として、困難事例や高齢者虐待等、権利擁護支援に関する研修会へ参加し朝礼での報告や資料を回覧するなどして全体での共有を図った。	
	(件)		・センター職員の実感として、成年後見制度に関する支援について、スーパービジョンを受けながら対応できたことにより、類似ケースの対応をスムーズに行うことができた。	
		R5年度	R6年度	R7年度
	高齢者虐待	6	7	10
	終結数	3	6	3
	終結率	50.0%	85.7%	30.0%
	セルフネグレクト	0	0	1
	成年後見等	14	13	11
	消費者被害	0	0	0
	困難事例	31	38	34
	○権利擁護に関する研修会への参加状況		・経験が少ない職員の権利擁護ケースの対応について、経験がある職員の同行や複数で担当する等、主担当者不在時もフォローできていた。また、相談を受け付けた際は、多職種で早急に検討する場を設けケースを対応したり、朝礼等で支援の進捗状況の共有や相談を行った。しかしケースの相談機会は定期的にあるわけではなく担当者の判断で支援が継続される傾向向にあり目標としては一部達成と評価する。	
	・令和7年6月20日 身寄りなし問題研究会		・高齢者虐待の相談件数は、令和7年度より増加しているが、各ケースにおいて、複雑化や介入の長期化の傾向にあることから、終結率が低下している。	
	・令和7年7月11日 長寿社会開発セミナー研究セミナー		・長期化、複雑化する要因や背景として、同居家族の依存による不適切な介護や、他人に頼りたくないという強い拒否感による介入困難、認知機能の低下による判断能力の低下等をケースへの対応からセンター職員が感じている。また、成年後見を申し立てし、審判が確定するまでに時間がかかることや、成年後見制度の利用が必要な人であっても利用に至らないことにより、終結までに長期化する要因と考えられる。	
	・令和7年7月22日 渡島圏域相談支援フォローアップ研修		・相談者からは「何から手をつけていいのかわからない」、「今後の生活に漠然とした不安がある」等の声が聞かれた。こうした不安の要因として、身元保証人がいない、財産管理や死後事務を依頼できる人がいない、住み替え時や入院時に緊急連絡先がない等が考えられる。地域住民が、こうした将来起こり得る困りごとに対して、備えられることが重要である。	
	・令和7年8月20日 地域包括支援センター職員基礎研修			
	・令和7年8月22日 道南在宅ケア研究会			
	・令和7年9月2日 法人後見実施のための研修会			
	・令和7年9月30日 北海道高齢者虐待防止推進研修会			
	・令和7年10月15日 地域包括ケアセミナー			
	・令和7年11月12日 障害福祉と高齢福祉分野の事例検討会			
	・令和7年11月13日 成年後見セミナー			
	・令和7年12月3日 地域包括支援センター職員研修			
	・令和7年12月12日 特殊詐欺防止セミナー			
	・令和7年12月15日 高齢者の権利擁護を考える集い			
	・令和8年2月6日 権利擁護支援シンポジウム			
	・令和8年2月25日 成年後見制度についての意見交換会			
	○総合相談や見守りネットワーク事業で把握した住民の声			
	・相談する人がいない、相談先がわからない			
	・身寄りがいない、障害や疾病のある家族がいる			
	・利用できる制度がわからない			
	・何から手をつけていいかわからない			
	・終活を知らない			
	・今後の生活に漠然とした不安がある			

令和 8 年度 活動計画		
活動目標	計 画	評価指標
センター職員がセンターとしての支援の方向性を持ち、権利擁護ケースに対応することができる	1 組織的な体制の構築 ・権利擁護業務に関する研修会への積極的な参加により、専門性の向上を図る。 ・朝礼や定例ミーティングでの伝達講習の定例化する。 ・介入が複雑、長期化する事例において、担当弁護士との定期相談会で早期に協議し、適切な解決に向けた知識向上につなげる。 ・経験の浅い職員に対する複数名体制による支援、および振り返りの機会を確保する。 ・権利擁護ケースを朝礼、定例ミーティング等で検討する機会を持つことで多角的な助言を行うことができる。 ・定期的にセンター内で事例検討会を開催し、対応方法について組織的な支援方針の決定を行うことで、類似ケースの対応にも活かすことができる。	・権利擁護に関する研修会への参加状況 ・権利擁護ケースの対応状況（対応したセンター職員の声等） ・権利擁護ケースの終結数 ・担当弁護士への相談状況 ・センター内事例検討会の開催数
地域住民が将来起こり得る困りごとに備え、利用できる制度や相談先を知ることができる	1 情報の周知 ・センターの役割や利用できる制度、実際の相談事例（成年後見制度や法テラス等）を掲載し、地域住民が手に取れるように広報紙を配布する ・将来起こり得る困りごとに備える意識づけと、困難化する前に相談を受けられるように活用できる資料を配布し、相談先を周知する。	・広報紙の配布数 ・相談の内容

(イ) 権利擁護業務

令和7年度 活動評価	
事業内容	

令和 8 年度 活動計画		
活動目標	計 画	評価指標
関係機関（ケアマネジャーや介護サービス事業所）がケースの将来の生活リスクを予測し、センターへ相談することができる	1 権利擁護研修会の開催 ・ケアマネジャーを対象に、高齢者虐待や支援困難ケースの早期発見や適切な相談時期について、理解を深められるような権利擁護に関する研修会を開催する。（令和8年9～12月を予定） ・介護サービス事業所を対象に、具体的な高齢者虐待（疑）事例を紹介し、相談に対するハードルが低くなるような内容の研修会を開催する。（令和8年9～12月を予定）	・権利擁護研修会の開催状況、研修後のアンケート結果 ・相談者内訳（ケアマネジャー、介護サービス事業所等） ・相談受理時の状況
	2 関係機関が相談しやすい体制構築 ・ケアマネジャーや介護サービス事業の来所時等における対面機会を活かし、日常的なコミュニケーション等により信頼関係を強化する。 ・センター職員は相談受理時に、共感的な傾聴を意識し、早期に適切なフィードバックを行う。	

(ウ) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

【根拠法令】介護保険法第115条の45第2項第3号

【目 的】高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、個々の高齢者の状況や変化に応じて、包括的かつ継続的に支援していくための地域における多職種相互の連携・協働の体制づくりや個々の介護支援専門員に対する支援を行う。

事業内容	令和7年度 活動評価																	
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価																
包括的継続的 ケアマネジメント 支援業務	○介護支援専門員への個別支援状況（実） （件） <table><tr><td></td><td>R5年度</td><td>R6年度</td><td>R7年度</td></tr><tr><td>ケース数</td><td>5</td><td>12</td><td>10</td></tr><tr><td>終結数</td><td>5</td><td>12</td><td>10</td></tr><tr><td>終結率</td><td>100%</td><td>100%</td><td>100%</td></tr></table>		R5年度	R6年度	R7年度	ケース数	5	12	10	終結数	5	12	10	終結率	100%	100%	100%	【活動目標】 ケアマネジャーが権利擁護に関する支援（虐待、生活困窮、家族支援等）を必要とする状況を適切に把握し、早期に対応することができる 【評価】 ・ケアマネジャーがケアマネジメント業務を行う上で、対応が難しいと感じる背景は、自身の実践力のほか、ケースの経済状況、家族関係、本人や家族の気質等、様々な事情があげられることから、支援方法の理解、実践力向上のため圏域研修会、事例検討会を開催した。参加人数から、ケアマネジャーが高い興味を示していることがわかり、事後のアンケートでは、「支援のポイントを理解できた」、「今後ケアマネジメントで活かすことができそう」等、研修効果が期待できる回答が多かった（アンケート結果b、c、e、i）。一方で、虐待に関する研修会のアンケートでは、早期に相談することに迷いがあるとの回答もあり（アンケート結果f）、本人や家族との関係性を重要視していまい、早期相談に至れないと思われるケアマネジャーも一部いることがわかった。 ・ケアマネジャーからの相談では、支援に困難な状況が発生していると判断した時点で早期にセンターへ連絡する人がいる一方で、対応に困りながらも、支援の継続に努め負担を感じている人もいた。 ・身寄りなし問題をテーマにした研修会では、多くのケアマネジャーが身寄りがない方の支援を経験し、問題に直面したことがあると回答した（アンケート結果a）。その際、半数以上のケアマネジャーが関係機関に相談していることから、相談先を検討する際に、大切な視点や判断の仕方について共有することができた。 ・研修後のアンケート結果やケアマネジャーからの相談対応の状況から、目標は概ね達成できたと評価するが、一部のケアマネジャーは判断に迷い、早期対応に至れていない状況があるため、令和8年度の課題として取り組みが必要である。また、高齢者虐待の対応は、多くのケアマネジャーが経験することではないため、虐待に関する基本的なことやケアマネジャーの役割、リスクマネジメント等、繰り返し学んでいくことが重要と考える。 ・地域のケアマネジャーより、高齢分野以外の支援について、学びの機会が欲しいとの意見があり、事例検討会を開催した。ケアマネジャーと
		R5年度	R6年度	R7年度														
	ケース数	5	12	10														
	終結数	5	12	10														
	終結率	100%	100%	100%														
	○圏域研修会 ①令和7年8月20日 テーマ：身寄りなし問題で起こること 目的：「身寄り（保証人）なし問題」の現状を理解し、成年後見制度や民間保証会社の活用等も踏まえた対応策について学び、実践力の向上を目指す。 参加者：22名 内容：・講師による「身寄りなし問題」についての講義 ・事例検討（身寄りがなく支援を必要とする事例について、考えられる問題の抽出とそれに対する支援方法を検討した） ■アンケート結果 a、これまで利用者に身寄りがないことで直面した問題はあるか ・ある…80% ・ない…20% b、身寄りがない方を支援する上で大切なことは理解できたか ・理解できた…95% ・もともと理解できていた…5% c、研修会の内容を今後のケアマネジメントに活かすことはできそうか ・活かすことができそう…100%																	
	②令和7年11月11日 テーマ：高齢者虐待とケアマネジャーの葛藤 目的：利用者と家族との信頼関係を重視し、葛藤が生じている中で、虐待疑いのあるケースについて相談をしなかった場合のリスクを客観的に考える（早期相談の重要性について理解）。また虐待対応時のケアマネジャーの役割を理解する。 参加者：22名 内容：・高齢者虐待の概要について講義 ・ある世帯の事例から、ケアマネジャーの心の動きと役割について考える ■アンケート結果 d、高齢者虐待に関する基本的理解はできていると感じたか ・理解していた…71% ・本日の研修で理解できた…29% e、虐待の発生や再発の予想（リスク管理）、客観的な視点を持ち、早期相談に至ることの大切さを理解できたか ・理解できた…100% f、自身が担当するケースで虐待と疑わしい状況が発生した際早期に相談することができそうか ・相談する…82% ・迷うと思う…18%																	

令和8年度 活動計画		
活動目標	計 画	評価指標
ケアマネジャーが将来の生活リスクを早期に予測し、権利擁護に関する支援を行うことができる	1 ケアマネジャーが抱える課題の把握と相談しやすい体制づくり ・必要に応じ、圏域内の居宅介護支援事業所への訪問・懇談を実施し、事業所内の体制やケアマネジャーの業務実施状況、センターに対する意見や要望等を把握する。 ・必要に応じ、サービス担当者会議やカンファレンスへ参加する。 ・圏域研修会や懇談会、ケアマネジャーがセンターへ来所した際等、顔を合わせて気軽に相談できる関係性を意識していく。 2 ケアマネジャーの相談対応、後方支援 ・介護予防支援業務を委託する居宅介護支援事業所ごとにセンター職員を担当制として対応する。 ・必要に応じて相談内容をセンター内で共有し、ケアマネジャーに対するより良い支援の方向性を協議する。 ・自立支援や地域との関わり、社会資源活用の視点を取り入れたケアマネジメントを実践することができるよう、意識して支援する。 3 ケアマネジャーと地域支援者のつながりを継続的に支援 ・ケースによって地域支援者とのつながりが必要と考えられる場合は、地域支援者及びケアマネジャー双方へ提案し、協力体制を取れるよう支援する。	・個別支援数 ・支援に至った要因 ・圏域の居宅介護支援事業所への訪問、懇談 ・ケアプランの支援内容 ・研修会開催時アンケート ・個別の地域ケア会議の開催回数、内容等

(ウ) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

事業内容	令和7年度 活動評価	
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価
包括的継続的 ケアマネジメント 支援業務	○圏域事例検討会 ①令和8年2月13日 テーマ：「孫と一緒に生活を続けたい」と願う高齢者の支援方法を考える 目的：最近は、支援を必要とする対象は高齢者とその家族に及ぶ世帯が増えている。孫が高齢者を介護する家庭の事例を通し、ヤングケアラー世帯の現状を理解し、その支援方法について検討する。 参加者：18名 内容：・オブザーバー/障がい福祉専門職 ・事例検討（一問一答による事例の理解、グループワークによる手立ての検討、全体共有） ■アンケート結果 g、これまで家族の支援に関わったことはあるか ・ある…39% ・ない…61% h、その世帯を支援した時どのように感じたか ・負担に感じた…46% ・専門機関につなぐ…36% ・必要に応じケアマネジャーが担うことで良い…9% i、事例検討会は今後の参考になりそうか ・参考になりそう…94% ・わからない…6% ○令和7年度函館市地域包括支援センターケアマネジメント研修 ①令和7年9月18日 ②令和7年9月19日 テーマ：「その人らしさ」を意識したケアプランの作成 目的：インテークからアセスメント、ケアプラン立案、実施、モニタリング、再アセスメントに至る一連の過程で必要なスキルが向上し、自立支援を意識したケアマネジメントを行うことができる。 参加者（圏域内の居宅介護支援事業所数/ケアマネジャー数） ①7事業所/11名 ②2事業所/5名 内容：・講義 ①その人らしさの支援とは「自立支援」そのもの ②「自分らしさ」を意識したプランニング ③利用者の幸せに寄り添う ・事例紹介 ・グループワーク ■アンケート結果 j、「自分らしさを意識したプランニング」について ・理解が深まった…54.7% ・理解できた…44.5% ・理解できなかった…0.2% k、「本人や地域の強みを活かし、自立支援を意識したケアマネジメントができる」について ・できていた…3.5% ・できそう…77.3% ・自信がない…19.1% ○圏域の居宅介護支援事業所への訪問、懇談 ・令和8年3月に1事業所に対して実施。状況把握、意見交換を行った（各センターとの連携状況、居宅介護支援事業所の体制について、センターに対する意見等）	しての業務の役割を越えても、必要時には対応する人がいる一方で、半数近くの人には負担に感じていることがわかった。今後、ますます家族も支援を必要とする世帯が増えていくと予想されるため、ケアマネジャー自身の対応力向上のほか、ケアマネジャーへのサポート体制や他関係機関、専門職との連携の強化が求められると考える。 【活動目標】 本人や地域の強みを活かし、自立支援を意識したケアマネジメントができる 【評価】 ・一連のケアマネジメント力向上を目的として、10センター合同のケアマネジメント研修会を開催し、自立支援や個別化を意識したケアプラン作成の視点について学んだ。 「利用者の幸せについて考えたい」、「その人らしさは大切なことだと改めて感じた」等、研修効果の高さをうかがえる意見が多数あった。また、「回想法が効果的」、「活用したい」等の意見もあり、新たな知識習得もできた。活動目標に対する問いでは「できていた」、「できそう」との回答が約8割を占め、研修の理解度はほぼ10割と高かった（アンケート結果j、k）。 ケアマネジャーの実践状況では、利用者の個性を意識して目標設定されている委託ケアプランが一部確認できた。 アンケート結果やケアマネジャーの実践状況から、目標は達成できたと評価する。 ・令和7年度に新設された、居宅介護支援事業所1事業所へ訪問し、懇談を行った。事業所の実態把握やセンターに対する率直な意見もあり連携を図るうえで貴重な機会となった。 他居宅介護支援事業所については、ケース対応や研修会、研修会後アンケートの結果等より、意見を把握する機会が多いことから、訪問、懇談を実施しなかった。しかし、円滑に連携し、良好な関係を保つことができている。 令和8年度も必要に応じ、居宅介護支援事業所への訪問、懇談を実施する。 ・その人らしい生活を支援するためには、その人をよく知り、理解することが大切だが、ケアマネジャーへの個別支援や委託ケアプランの提出状況等から、アセスメントが十分ではなく、特に健康管理に関する情報の収集とリスク管理の視点が不足するケースが散見した。自立支援に資するケアマネジメントを実践するためには、介護保険サービスの提案だけではなく、丁寧なアセスメントのほか、他制度による支援や社会資源の知識、活用、介護予防の視点等が求められる。地域のケアマネジャーは、ケアマネジメントの研鑽に努める必要があると考え、令和8年度の課題としていきたい。

令和8年度 活動計画		
活動目標	計 画	評価指標
地域包括ケアシステムを意識した、より質の高いケアマネジメントを考えることができる	1 函館市地域包括支援センターケアマネジメント研修の開催 ・日程：令和8年11月12日（木）～13日（金） ・テーマ：令和9年度介護保険制度改正のポイントを学ぶ ・研修形態：講義・演習（ハイブリット） ・内容 ①介護保険制度改正のポイント ②介護支援専門員に求められること 2 圏域事例検討会および研修会等の開催 ・圏域ケアマネジャーと連携して開催する。 ・介護分野以外の専門職の参加を促し、お互いの立場を理解し、円滑に連携できる関係づくりを進めていくことができるよう努める。 ・ケアマネジャー同士の横のつながり、お互いに支え合える関係の構築を支援する。 ・介護予防に関する研修会の開催（介護予防の基本的理解、ケアプラン作成時のアセスメント（特に健康領域）の振り返り、ケアプランへの反映等） 3 圏域ケアマネジャーへの情報提供 ・ケアマネジメントの実践に有効と思われる研修会開催の案内や法令通知等の情報提供を行う。	・函館市地域包括支援センターケアマネジメント研修開催時アンケート ・圏域事例検討会や研修会開催時アンケート ・圏域の居宅介護支援事業所への訪問・懇談 ・基本情報、ケアプランのアセスメントや支援の内容

(イ) 地域ケア会議推進事業

【根拠法令】介護保険法第115条の48

【目的】地域包括ケアシステムの構築のため、地域ケア会議を開催し、介護サービスだけでなく、様々な社会資源が有機的に連携することができる環境を整備し、高齢者が住み慣れた地域で自立した生活を営むことができるよう支援を行う。

事業内容	令和7年度 活動評価																																																									
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価																																																								
個別ケースの検討を行う地域ケア会議	○個別ケースの検討を行う地域ケア会議 ①開催状況 (回) <table><tr><td></td><td>R5年度</td><td>R6年度</td><td>R7年度</td></tr><tr><td>目標数値</td><td>6</td><td>5</td><td>5</td></tr><tr><td>開催回数</td><td>7</td><td>5</td><td>5</td></tr><tr><td>達成率</td><td>117%</td><td>100%</td><td>100%</td></tr></table> ②参集者（人） 本人（1）、家族（1）、近隣（1）、民生委員（8） 町会役員（6）、在宅福祉委員（2）、行政（3） 介護支援専門員（4）、介護サービス事業所（3） 警察（2）、第2層生活支援コーディネーター（2） ③検討した個別課題 <table><tr><td>日常生活に関する課題</td><td>3</td></tr><tr><td>認知症や精神疾患による問題行動</td><td>3</td></tr><tr><td>健康管理に関する課題</td><td>4</td></tr><tr><td>サービス利用に関する課題</td><td>2</td></tr><tr><td>経済面の課題</td><td>0</td></tr><tr><td>家族の課題</td><td>2</td></tr><tr><td>支援者との関係に関する課題</td><td>2</td></tr><tr><td>地域との関係についての課題</td><td>2</td></tr><tr><td>その他</td><td>2</td></tr></table> ④検討した支援内容 <table><tr><td>地域における見守り体制の構築</td><td>4</td></tr><tr><td>関係機関における見守り体制および支援体制の構築</td><td>3</td></tr><tr><td>サービス等利用調整</td><td>1</td></tr><tr><td>サービス・制度等の拡充</td><td>0</td></tr><tr><td>地域住民への周知</td><td>0</td></tr><tr><td>家族への支援</td><td>1</td></tr><tr><td>健康管理に関する支援</td><td>2</td></tr><tr><td>関係機関のネットワーク構築</td><td>2</td></tr><tr><td>地域のネットワーク構築</td><td>2</td></tr><tr><td>地域づくり</td><td>1</td></tr><tr><td>その他</td><td>0</td></tr></table> ・認知症等をもつ高齢者や家族が支援を拒否する傾向にある場合、地域支援者や関係機関（医療・介護・行政等）は連携体制にあっても支援に限界があることを互いに理解する必要がある。 ・高齢者等が地域との関わりを希望せず、孤立している事例では、地域支援者は本人の状況把握が困難になる。健康状態が悪化しても気づきづらい。警察等関係機関の協力も得て地域ぐるみで見守り活動することが必要である。 ・家庭内暴力、高齢者虐待（疑）に気づいた場合、地域支援者間で状況共有し、警察や行政等へ相談する。早期に支援に関わる機関が参集し情報共有、支援の方向性等を協議し対応する。		R5年度	R6年度	R7年度	目標数値	6	5	5	開催回数	7	5	5	達成率	117%	100%	100%	日常生活に関する課題	3	認知症や精神疾患による問題行動	3	健康管理に関する課題	4	サービス利用に関する課題	2	経済面の課題	0	家族の課題	2	支援者との関係に関する課題	2	地域との関係についての課題	2	その他	2	地域における見守り体制の構築	4	関係機関における見守り体制および支援体制の構築	3	サービス等利用調整	1	サービス・制度等の拡充	0	地域住民への周知	0	家族への支援	1	健康管理に関する支援	2	関係機関のネットワーク構築	2	地域のネットワーク構築	2	地域づくり	1	その他	0	【活動目標】 地域支援者や関係機関（行政、医療機関等）が認知症を持つ高齢者や家族の状況等を相談し、支援者の一員として連携した支援に取り組むことができる ①行政の意見等 地域ケア会議で協議した視点でモニタリング訪問をすること、緊急時や状況に変化があった場合は支援者が共有すること、他制度の活用の提案や虐待（疑）に関する視点で経過観察すること等の発言があった。 ②医療機関の意見等 地域ケア会議に参加できなかったが、会議の開催に賛同した医療相談員は、医師、看護師から意見等を集約し、情報提供した。 ③地域支援者の意見等 ・関係機関（医療、介護等）の支援状況を把握したことによって、見守りや緊急時の対応等について継続できる、との発言があった。 ・地域支援者から希望があり、地域ケア会議を開催した事例があった。地域活動の参加状況や地域の関わりを関係機関に知ってもらい、地域と関係機関が支援チームとしての関係性を構築した。 ・家庭内暴力（疑）の事例では、地域支援者が関わりをもつことが難しかった。今後、同様な事例があった場合、どのように対応するか考えさせられた。 ・以上のように、地域支援者や関係機関が認知症等を持つ高齢者や家族の状況を共有し、安心できる在宅生活のために、見守り等支援方法や役割分担、連絡体制を具体的にしたことから、目標は達成したと評価する。 ・地域支援者や関係機関は、判断能力の低下した高齢者や家族の状況を把握することが難しい、また、生活に支障が出ていることに気付いているが、本人や家族が支援を拒否する傾向にあるため、支援を諦めてしまうことがある。今後は、支援に限界があることを理解しつつも諦めず、高齢者等の異変に気付いた時点で早期に相談する意識を持ち、チームアプローチで支援する必要がある。
		R5年度	R6年度	R7年度																																																						
	目標数値	6	5	5																																																						
	開催回数	7	5	5																																																						
	達成率	117%	100%	100%																																																						
	日常生活に関する課題	3																																																								
	認知症や精神疾患による問題行動	3																																																								
	健康管理に関する課題	4																																																								
	サービス利用に関する課題	2																																																								
	経済面の課題	0																																																								
家族の課題	2																																																									
支援者との関係に関する課題	2																																																									
地域との関係についての課題	2																																																									
その他	2																																																									
地域における見守り体制の構築	4																																																									
関係機関における見守り体制および支援体制の構築	3																																																									
サービス等利用調整	1																																																									
サービス・制度等の拡充	0																																																									
地域住民への周知	0																																																									
家族への支援	1																																																									
健康管理に関する支援	2																																																									
関係機関のネットワーク構築	2																																																									
地域のネットワーク構築	2																																																									
地域づくり	1																																																									
その他	0																																																									

令和 8 年度 活動計画		
活動目標	計 画	評価指標
地域支援者や関係機関（行政、医療機関等）が、認知症や支援拒否等のある高齢者や家族に気づいたら、早期に相談しチームで支援に取り組むことができる	1 高齢者等に必要な支援について検討する個別ケースの地域ケア会議 【内容】 ・地域支援者や関係機関が、支援を必要とする高齢者等やその家族について、状況や支援経過等を情報共有し、支援の方向性や役割分担等を協議する。 ※地域支援者と関係機関は、それぞれの機能と役割について理解し、お互いの立場を配慮しつつ協議し、ネットワーク構築を図る。	・開催回数と計画達成率 ・検討した個別課題 ・検討した支援内容 ・発見した地域課題 ・参加者状況

(イ) 地域ケア会議推進事業

事業内容	令和7年度 活動評価																	
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価																
地域課題の検討を行う地域ケア会議	○地域課題の検討を行う地域ケア会議 ①開催状況 (回) <table><tr><td></td><td>R5年度</td><td>R6年度</td><td>R7年度</td></tr><tr><td>目標数値</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td>開催回数</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td>達成率</td><td>100%</td><td>100%</td><td>100%</td></tr></table>		R5年度	R6年度	R7年度	目標数値	3	3	3	開催回数	3	3	3	達成率	100%	100%	100%	【活動目標】 高齢者のニーズにあった地域活動の継続について検討できる 【評価】 サロン活動について ・「他サロンの取り組みが自分のサロンでも活かそうなので実践する。」「私たちのサロンはすごいことがわかった。」との声が複数あった。 ・各サロンの活動状況について、センター広報紙等で地域住民へ周知し、参加者の増加につながるよう取り組んだ。 ・各サロンの課題に対する取り組み状況等をモニタリングし、新たに課題が確認された場合、必要に応じ、地域ケア会議の開催を検討する。
		R5年度	R6年度	R7年度														
	目標数値	3	3	3														
	開催回数	3	3	3														
	達成率	100%	100%	100%														
	②テーマ、参加機関、今後の方向性 1) 令和7年8月29日	「中部カフェ～みんなのふれあい広場～」 (以下、「中部カフェ」という。)について ・広報活動により「中部カフェ」を知る地域住民（高齢者含む）は以前より増加している。 ・参加者155名中、高齢者は35名であった。一般参加の高齢者と子どもや保護者らとの交流の場面は少なかった。高齢者の参加の増加や、多世代に興味があり一緒に取り組める内容の工夫が必要である。 ・大学生企画ブース（実験、物づくり）では、多世代が楽しんでいた。大学生からは、どの年代でも楽しめる内容や関わり方を考案することが難しかった、との感想があった。 ・会場である中部小学校までの移動が難しい高齢者も多い。中部カフェを各町会館等、移動可能な場所で開催することを検討する。 ・中部小学校は中部エリアでの防災拠点である等、地域住民が平時から馴染みある場所であることが望ましい。																
	<table><tr><td>テーマ</td><td>みんなでつくる大森浜エリア 第1回目'防災'</td></tr><tr><td>参加者</td><td>・民生委員（3人）・町会役員（6人） ・介護サービス事業所（3人） ・行政（1人）・自立相談支援機関（2人） ・第2層生活支援コーディネーター（1人） ・巴中学校教員（1人） ・巴中地域コーディネーター ・大森浜小学校教員（1人） ・大森浜児童館（1人）・救護施設（1人） ・障害者就労支援事業所（1人）</td></tr><tr><td>会場</td><td>大森浜児童館</td></tr><tr><td>検討内容</td><td>①話題提供 「大森浜エリア（※）のチカラと声」 ～こんな大森浜エリアがあるといいね～ ②グループワーク 「災害に備えるために助け合う関係づくり」 ・災害に備えて行っていること （主に、7月30日津波警報の振り返り） ・災害に備えるための課題</td></tr><tr><td>今後の方向性</td><td>○大森浜エリアで取り組みたいこと 令和7年度中に大森浜児童館で防災イベントを開催する ○「みんなでつくる大森浜エリア」 多世代が関心・興味あることを題材に話し合いやイベントで交流したい</td></tr></table> ※大森浜エリア：金堀町、広野町、日乃出町 高盛町、宇賀浦町、的場町	テーマ	みんなでつくる大森浜エリア 第1回目'防災'	参加者	・民生委員（3人）・町会役員（6人） ・介護サービス事業所（3人） ・行政（1人）・自立相談支援機関（2人） ・第2層生活支援コーディネーター（1人） ・巴中学校教員（1人） ・巴中地域コーディネーター ・大森浜小学校教員（1人） ・大森浜児童館（1人）・救護施設（1人） ・障害者就労支援事業所（1人）	会場	大森浜児童館	検討内容	①話題提供 「大森浜エリア（※）のチカラと声」 ～こんな大森浜エリアがあるといいね～ ②グループワーク 「災害に備えるために助け合う関係づくり」 ・災害に備えて行っていること （主に、7月30日津波警報の振り返り） ・災害に備えるための課題	今後の方向性	○大森浜エリアで取り組みたいこと 令和7年度中に大森浜児童館で防災イベントを開催する ○「みんなでつくる大森浜エリア」 多世代が関心・興味あることを題材に話し合いやイベントで交流したい	・元気サロンの自主化を進める上での工夫点や活動継続のためのアイデア等を情報交換した。サロン活動の効果や意欲を表出したり、活動継続に自信を持てる機会となった。 また、高齢者を含む多世代交流の場「中部カフェ」の計画、開催、評価等を通じ、高齢者のニーズや取り組みの効果、継続について検討することができた。 以上から、目標は達成したと評価する。						
	テーマ	みんなでつくる大森浜エリア 第1回目'防災'																
	参加者	・民生委員（3人）・町会役員（6人） ・介護サービス事業所（3人） ・行政（1人）・自立相談支援機関（2人） ・第2層生活支援コーディネーター（1人） ・巴中学校教員（1人） ・巴中地域コーディネーター ・大森浜小学校教員（1人） ・大森浜児童館（1人）・救護施設（1人） ・障害者就労支援事業所（1人）																
	会場	大森浜児童館																
検討内容	①話題提供 「大森浜エリア（※）のチカラと声」 ～こんな大森浜エリアがあるといいね～ ②グループワーク 「災害に備えるために助け合う関係づくり」 ・災害に備えて行っていること （主に、7月30日津波警報の振り返り） ・災害に備えるための課題																	
今後の方向性	○大森浜エリアで取り組みたいこと 令和7年度中に大森浜児童館で防災イベントを開催する ○「みんなでつくる大森浜エリア」 多世代が関心・興味あることを題材に話し合いやイベントで交流したい																	
2) 令和7年11月19日	・「中部カフェ」をはじめ、住民主体の助け合い活動を知らず、参加に至れない高齢者等は多数いるが、住民主体の助け合い活動は、多世代が地域ぐるみで実践を可能にし、孤立、閉じこもり、フレイル予防に有効となる。 住民主体の活動について、地域住民（高齢者を含む）や地域支援者、関係機関が知り、活動拡充や担い手としての参加等を検討する機会が必要である。																	
<table><tr><td>テーマ</td><td>サロン活動をより楽しく継続しよう！</td></tr><tr><td>参加者</td><td>・地域住民（13人） 中央部第1圏域でサロン活動する9団体 ・介護サービス事業所（1人）</td></tr><tr><td>会場</td><td>特別養護老人ホーム松濤 7階 地域交流スペース</td></tr><tr><td>検討内容</td><td>①講話 「地域サロン活動で健康を維持しよう！」 合同会社ここから/理学療法士 岡嶋 大 氏 ②グループワーク、全体ワーク ・サロン活動を進める上での工夫点 ・サロン活動継続のためのアイデア ・サロン活動に対する意識、意見</td></tr><tr><td>今後の方向性</td><td>○各サロンの情報交換は継続のために有効 ○助成金の活用、町会の周知活動等については未実施のサロンで検討を予定。 ○活動の課題はあるも、楽しく交流、健康づくりできるので今後も継続する。</td></tr></table>	テーマ	サロン活動をより楽しく継続しよう！	参加者	・地域住民（13人） 中央部第1圏域でサロン活動する9団体 ・介護サービス事業所（1人）	会場	特別養護老人ホーム松濤 7階 地域交流スペース	検討内容	①講話 「地域サロン活動で健康を維持しよう！」 合同会社ここから/理学療法士 岡嶋 大 氏 ②グループワーク、全体ワーク ・サロン活動を進める上での工夫点 ・サロン活動継続のためのアイデア ・サロン活動に対する意識、意見	今後の方向性	○各サロンの情報交換は継続のために有効 ○助成金の活用、町会の周知活動等については未実施のサロンで検討を予定。 ○活動の課題はあるも、楽しく交流、健康づくりできるので今後も継続する。								
テーマ	サロン活動をより楽しく継続しよう！																	
参加者	・地域住民（13人） 中央部第1圏域でサロン活動する9団体 ・介護サービス事業所（1人）																	
会場	特別養護老人ホーム松濤 7階 地域交流スペース																	
検討内容	①講話 「地域サロン活動で健康を維持しよう！」 合同会社ここから/理学療法士 岡嶋 大 氏 ②グループワーク、全体ワーク ・サロン活動を進める上での工夫点 ・サロン活動継続のためのアイデア ・サロン活動に対する意識、意見																	
今後の方向性	○各サロンの情報交換は継続のために有効 ○助成金の活用、町会の周知活動等については未実施のサロンで検討を予定。 ○活動の課題はあるも、楽しく交流、健康づくりできるので今後も継続する。																	

令和8年度 活動計画		
活動目標	計 画	評価指標
地域住民（高齢者を含む）が、高齢者等のニーズにあった地域活動を知り、参加する人が増える	1 地域課題の検討を行う地域ケア会議 【テーマ】 「我がまちの'住民主体の助け合い活動'を知っていますか？（案）」 【参集者】 地域住民、地域支援者、ケアマネジャー、介護・障がいサービス事業所等、地域コーディネーター、学校運営協議会、行政、住民主体の助け合い活動の実践団体 【内 容】 ・中央部第1圏域にある「住民主体の助け合い活動」の紹介 ・高齢者等の日常活動について振り返り、地域とのつながりを持ち、役割や生きがい活動の参加を検討する。 ・助け合い活動の担い手、協力者としての参加を検討する。	・開催回数と計画達成率 ・検討した地域課題 ・検討した支援内容 ・地域づくり、資源開発への発展の有無

(イ) 地域ケア会議推進事業

令和7年度 活動評価	
事業内容	
実績（実施回数、内容、実施方法等）	
活動目標に対する評価	
3) 令和7年12月5日	【活動目標】 高齢者のニーズにあった地域活動の場づくりに ついて検討できる
	【評 価】 ・災害に備えるための地域課題を共有し、大森 浜エリアで取り組みたいこと（多世代で取り 組む防災活動）に関して協議した。
	・「平常時でも、知らない人には声をかけない し気にもならない。普段から挨拶を交わす等 見知りとなり、頻回でなくてもよいので交流 顔する機会があると良い」との意見がでた。
	・高齢者を含む多世代が「防災」に対する関心 が高いことを共有した。地域支援者や教育機 関、地域コーディネーター等の協働により、 「防災イベント」を令和7年度中に開催し、 交流する機会にすることを決定した。 以上のことから、目標は達成したと評価する。
	・高齢者等は、町会行事等の地域活動を知って いても参加を希望しなかったり、新たなイベ ント等が開催されても周知に時間がかかる等、 交流の機会を持たず、孤立しやすい状況にあ る。大森浜エリアにおいては、高齢者等が困 りごとを誰かに相談でき、地域の誰かが支援 の必要な状況を早期に気づける「見守り合う 地域づくり」を検討する必要がある。
地域課題 の検討を 行う地域 ケア会議	

令和8年度 活動計画		
活動目標	計 画	評価指標
高齢者を含む地域住民が、孤立せず、地域で見守り合うための取り組みについて検討できる	1 地域課題の検討を行う地域ケア会議 【テーマ】 「みんなでつくる大森浜エリア」 第2回‘互いに見守り合う地域づくり’ 【参集者】 地域住民、地域支援者、介護・障がいサービス事業所等、民間企業行政 等 【内 容】 ・見守り活動等の関わりの中で把握した、地域住民（高齢者を含む）の健康、生活に対する不安について情報共有する。 ・地域で安心して暮らしていく上で課題となっていることを共有し、対応方法について協議する。 ・助け合い活動の担い手、協力者としての参加を検討する。	・開催回数と計画達成率 ・検討した地域課題 ・検討した支援内容 ・地域づくり、資源開発への発展の有無

イ 生活支援体制整備事業

(ア) 第2層生活支援コーディネーター業務

【根拠法令】介護保険法第115条の45第2項第5号

【目的】地域における住民主体の助け合い活動を促進する仕組みおよび高齢者の社会参加を促進する仕組みの創出ならびに充実を行う。

事業内容	令和7年度 活動評価	
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価
第2層生活支援 コーディネーター業務	1 地域支援者、関係機関との連携 ① まちづくり懇談会、意見交換 1)令和7年5月21日 参加者：松川町会 テーマ：町会活動とセンターとの連携 2)令和7年6月16日 参加者：新川町会 テーマ：新川町会と中部カフェの連携 3)令和7年7月10日 参加者：大縄町会 テーマ：大縄町会と中部カフェの連携 4)令和7年7月30日 参加者：日乃出町会、第9方面民児協 テーマ：日乃出改良団地の見守り、住民の助け合い 5)令和7年8月8日 参加者：第4方面町会連合会 テーマ：7月30日津波警報発令時の町会と町民の様子 6)令和7年8月18日 参加者：松川町会 テーマ：「町民のつどい」の開催と連携 7)令和8年1月8日 参加者：新川町在宅福祉委員会 テーマ：在宅福祉委員会活動と課題 8)令和8年1月30日 参加者：松川町会、高盛町会 テーマ：地域活動～この町の居場所・つながり～ ② 町会・地域・学校行事等への参加 1)令和7年6月10日 「大森浜海岸清掃を町会の皆様とともに」 大森浜小学校、PTA、地域コーディネーター 市教育委員会、的場町会、高盛町会、日乃出町会 2)令和7年7月5日 「大森浜児童館まつり」 大森浜児童館、金堀広野町会、高盛町会 3)令和7年7月5日 「大門学生祭」 グリーンプラザで開催 大門学生祭実行委員 4)令和7年7月20日 「第23回 虹と夢まつり」 5)令和7年9月4日 「北星小1日防災学校」 第5方面民児協、海岸町会、松川町会、大縄町会 6)令和7年9月14日 「大縄町ふれあい祭り」 大縄町会、北星小学校、海岸町会、松川町会 7)令和7年12月20日 「みんなのたまり場 いぐべ！」 ナルク函館はまなす、青柳小・鍛神小学生、地域住民 8)令和8年2月21日 「新川町もちつき大会」 新川町会、セルフサポート高砂通り、学童クラブ さんさんさん、大森交番	【活動目標】 高齢者のニーズにあった地域活動の継続について検討できる 【評価】 ・広報活動により「中部カフェ」を知る住民（高齢者含む）は以前より増加している。継続することにより、参加する地域住民が増加すると考えられる。 ・高齢者の参加割合が低く、多世代と交流する場面は少なかった。世代を問わず、一緒に楽しめる内容や工夫が必要である。 ・会場である中部小学校までの移動が難しい高齢者も多いため、中部カフェを各町会館等、移動可能な場所で開催することを検討する必要がある。 ・「中部カフェ企画委員会」や「元気サロン」等、既存の住民主体の助け合い活動の継続、促進のためには、計画、会場調整、広報、予算確保等について助言や制度活用、講師派遣等の後方支援の継続が必要である。 ・高齢者を含む多世代交流の場「中部カフェ～みんなのふれあい広場～」の計画、開催、評価等を通じ、高齢者のニーズや取り組みの効果・継続について検討することができた。 以上のことから、目標は達成したと評価する。 ・「中部カフェ」をはじめ、住民主体の助け合い活動を知らず、参加に至らなかった高齢者等は多数いる。 住民主体の助け合い活動は、多世代が地域ぐるみで実践を可能にし、孤立、閉じこもり、フレイル予防に有効となる。地域住民（高齢者を含む）や地域支援者、関係機関が知り、活動拡充や担い手としての参加等を検討する機会が必要である。

令和8年度 活動計画		
活動目標	計 画	評価指標
高齢者等のニーズにあった地域活動を知り、参加する地域住民（高齢者を含む）が増える	1 懇談会、行事参加、出前講座等を行い、助け合いや社会参加状況について話題にし、地域活動について周知する ・まちづくり懇談会（町会、関係機関、学校等） ・民児協定例会への参加 ・町会、商店街組合等の行事へ参加 ・運営推進会議の出席 ・出前講座の開催 2 地域課題の検討を行う地域ケア会議 【テーマ】 「我がまちの‘住民主体の助け合い活動’を知っていますか？」 【参集者】 地域住民、地域支援者、ケアマネジャー、介護・障がいサービス事業所等、地域コーディネーター、学校運営協議会、行政、住民主体の助け合い活動の実践団体 【内 容】 ・中央部第1圏域にある「住民主体の助け合い活動」の紹介（元気サロン、中部カフェ等の地域活動一覧を作成し配布する） ・高齢者等の日常活動について振り返り、地域とのつながりを持ち、役割や生きがい活動の参加を検討する。 ・助け合い活動の担い手、協力者としての参加を検討する。 3 住民主体の助け合い活動の後方支援 ① 中部カフェ企画委員会 ・総会、委員会の開催 ・「中部カフェ」の開催 中部小学校や町会館を会場として、各1回開催予定 ② 元気サロン ・町回覧やリーフレット、広報紙の配布等により周知 - 高齢者や活動に興味あるボランティア等の参集を図る。 ・元気サロンの活動計画や進行に関する相談やモニタリング、外部講師調整や介護予防に関する制度等の情報提供、講話等を行う。	・懇談会等の開催回数及び内容 ・地域住民の声 ・開催回数と計画達成率 ・検討した地域課題 ・検討した支援内容 ・参加者の声 ・中部カフェ、中部カフェ企画委員会の開催回数と内容 ・中部カフェの参加者状況 ・中部カフェ参加者アンケート ・支援回数、支援内容 ・参加者数 ・住民同士の助け合い ・参加者の声

(ア) 第2層生活支援コーディネーター業務

事業内容	令和7年度 活動評価	
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価
第2層生活支援 コーディネーター業務	2 第2層協議体による会議a 令和7年12月5日	【活動目標】 地域住民や関係機関等が高齢者のニーズにあった地域活動の場づくりについて検討できる
	テーマ	みんなのふれあい広場～遊防祭～と 中部エリアのまちづくり
	参加者	・地域住民（2人） ・中部カフェ企画委員（4人） ・大門学生祭実行委員（1人） ・中部小学校PTA（2人）、教員（1人） ・中部小学校 地域コーディネーター ・自立相談支援機関（2人） ・第1層生活支援コーディネーター（1人）
	会 場	特別養護老人ホーム俱有
	検討内容	「みんなのふれあい広場（R7.11.9開催）」 ① 参加状況、協力機関について ② 当日の開催状況について ③ 開催評価 ・ アンケート結果 ・ 令和6年度の課題に対して
	今後の 方向性	○中部カフェ「みんなのふれあい広場」の 開催継続 ・ 令和8年度以降も中部小学校で開催する ・ 実験、工作ブース（大学生企画）は多世 代に関心が高い ・ 高齢者等が交流しやすくなるように、高齢 者等の参加者を増やす工夫が必要 ○開催主体、協力者等について ・ 広報紙チラシによる周知効果はあった ・ 協賛機関賛助金、各助成金等を活用 ○中部小学校区エリアの地域活動と中部カフェ 活動との連携について ・ 第4方面民児協活性化事業との共催 ・ 大門学生祭との連携 ・ 町会行事への参加・協力 ・ 「みんなで遊防祭」の開催状況、評価、 課題
	検討内容	② 「みんなのふれあい広場」開催継続につ いて
	今後の 方向性	○令和8年度も同様規模で検討する ○主催は「中部小学校区地域みんなのケア 会議」を構成機関とする ○会場が決定し次第、プロジェクト会議を 開催し検討する
	3 中部カフェ企画委員会 総会、委員会の開催（主な内容）	・ 令和7年4月19日 通常総会、第1回委員会(会場の検討) ・ 令和7年5月19日 第2回委員会（第5回中部カフェ計画） ・ 令和7年7月12日 第3回委員会（中部エリア町会との懇談） ・ 令和7年9月6日 第4回委員会（役割分担、大学生連携） ・ 令和7年10月6日 第5回委員会（広報、ブース進捗確認） ・ 令和7年10月31日 第6回委員会（タイムスケジュール） ・ 令和7年12月19日 第7回委員会（第6回中部カフェ計画） ・ 令和8年3月5日 第8回委員会（タイムスケジュール）
	※上記委員会の他、中部小学校教員、大門学生祭実行委員会 自衛隊函館地方協力本部、自立相談支援機関等と中部カフ ェ企画委員会役員との懇談会を8回開催した。	

令和 8 年度 活動計画		
活動目標	計 画	評価指標
高齢者を含む地域住民が、孤立せず地域で見守り合うための取り組みについて検討できる	1 地域課題の検討を行う地域ケア会議 【テーマ】 「みんなでつくる大森浜エリア」 第 2 回‘互いに見守り合う地域づくり’ 【参集者】 地域住民、地域支援者、介護・障がいサービス事業所等、民間企業行政 等 【内 容】 ・見守り活動等の関わりの中で把握した、地域住民（高齢者を含む）の健康、生活に対する不安について情報共有する。 ・地域で安心して暮らして行くうえで、課題となっていることを共有し対応方法について協議する。	・開催回数と計画達成率 ・検討した地域課題 ・検討した支援内容 ・地域づくり、資源開発への発展の有無
	2 地域住民（主に高齢者）を対象に出前講座等を行う ・地域での見守り合いについて ・終活ノート配布 ・生活、健康等に関する相談先の周知	・出前講座の参加者の声 - 講座後の相談内容
	3 地域支援者を対象に懇談会、出前講座等を行う ・地域住民（主に高齢者）の見守り活動について ・相談機関、活用できる制度等について	

(ア) 第2層生活支援コーディネーター業務

事業内容

令和7年度 活動評価

実績（実施回数、内容、実施方法等）

活動目標に対する評価

4「中部カフェ」の開催
「みんなのふれあい広場～みんなで遊防祭～」

日 時	令和7年11月9日（日）10時～13時
会 場	中部小学校 体育館
参加者	参加者 155人 ※申込者：154人 (幼児～中学生50人、大人105人)
内 容	・受付（スタンプラリーカード配布） ・アクティビティ(防災・防犯ブース、自転車シミュレーター、パラスポーツ体験、昔の遊び交流ブース、プラバン、スライム作り、大学生ブース/科学実験、空袋ポーチ作り ・アンケート、お土産配布（綿あめ、防災食等）

【参加者アンケートの結果】

Q1 回答人数（65人）

小・中学	20～40代	50～60代	70以上
21人	28人	10人	6人

小・中学生

20～40代

50～60代

70代以上

Q2 参加した感想

感想	小・中学生	20～40代	50～60代	70以上
とても楽しかった	16	14	3	0
楽しかった	4	14	7	4
普通	1	0	0	2
あまり楽しかった	0	0	0	0

Q3 参加してよかったブース

ブース	小・中学生	20～40代	50～60代	70以上
1 自転車シミュレーター	15	15	4	2
2 パラスポーツ	12	11	6	1
3 プラパン	15	13	6	0
4 スライム	13	18	7	1
5 交流コーナー（昔遊び）	7	8	2	1
6 防災	10	14	7	1
7 大学生コーナー	11	17	3	1

Q4 今後の「みんなのふれあい広場」で希望する内容

希望内容	小・中学生	20～40代	50～60代	70以上
1 寺子屋	3	2	0	0
2 体操・ニュースポーツ	9	6	3	2
3 防災教室	5	4	3	0
4 スマホ教室	5	4	2	3
5 コーヒー・紅茶講座	13	8	3	1
6 DIY・物づくり	18	8	3	1
7 フラワーアレンジメント	6	6	2	0
8 地域食堂	11	4	2	0
9 お化粧・ネイル	10	4	2	0
10 季節の行事	10	6	5	1
11 その他（カフェ、サロン）	1	0	0	1

【活動目標】
支え合いや健康づくりに関心のある地域住民（特に高齢者）が、地域活動の状況を知ることができる

【評 価】

・地域活動の状況について、地域行事や懇談会、出前講座等で話題提供したり、地域住民が集う医療、福祉、商業、教育等の機関へ広報紙等を配布した。

・テーマ「サロン活動の継続」の地域ケア会議では、他サロンとの情報交換やサロン活動の課題点について話し合った。参加者は、これまでの活動に自信を持ち「楽しいから今後も続けたい」と意欲的になることができた。サロン活動が、住民同士の支え合いの場となっていること、活動の担い手として役割があることを意識する機会になった。

・地域活動に参加している地域住民からは「参加者と生活習慣について意見交換することで勉強になった」といった声があり、介護予防に関する知識を深めることにつながっている。

・しかし、総合相談や行事参加の場面等において、地域住民から地域活動について話題に上がるものの、少数であったことから、活動目標は一部達成したと評価する。

・地域住民や高齢者等の支援者（地域支援者、介護福祉関係者、見守り等協力機関）が、地域にある住民主体の支え合い活動を知り、健康づくりや介護予防、助け合いに関心ある高齢者に対する情報提供や相談に至ることができないか、検討する必要がある。

第2層生活支援
コーディネーター業務

令和 8 年度 活動計画		
活動目標	計 画	評価指標

(ア) 第2層生活支援コーディネーター業務

事業内容	令和7年度 活動評価	
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価
第2層生活支援 コーディネーター業務	小・中学生 20～40代 50～60代 70代以上 Q5 今後の「みんなのふれあい広場」で参加しやすい場所 1 町会館 2 総合福祉センター（あいよる） 3 自由市場 4 中部小学校 5 中部エリア福祉施設 6 その他 Q6 主催を知っていたか 知っていた 知らなかった Q7 参加しようと思ったのはなぜか 1 去年も参加して楽しかったから 2 チラシを見て興味を持った 3 友達や周りの人に聞いて興味を持った 4 その他（サークルの一環、町会長のすすめ） Q8 感想・ご意見 次回以降も参加したい 企画・準備のお手伝いをしたい よくわからない その他（飲食コーナーが残念）	

令和 8 年度 活動計画		
活動目標	計 画	評価指標

(ア) 第2層生活支援コーディネーター業務

第2層生活支援
コーディネーター業務

事業内容

令和7年度活動評価

実績（実施回数、内容、実施方法等）

活動目標に対する評価

「みんなでつくる伝統の味！べこ餅作り」

日 時	令和8年3月29日（日）10時～12時
会 場	若松町会館
参加者	参加者 42人 ※申込者：43人 （幼児～小学生10人、大人32人）
内 容	・ べこ餅作り（スタンダード葉型、オリジナル型/花、キャラクター等） ・ 手遊び（折り紙、竹とんぼ、お手玉） ・ 会食 ・ アンケート

【参加者アンケートの結果】

○回答人数（21人）

小学生以下	20代	40代	60代	70以上
8人	2人	4人	3人	4人

○参加した感想

- ・ ‘べこ餅作り体験会’の企画が良い（40代）
- ・ べこ餅を作ってみたかったので良い（40代）
- ・ 優しく教えてもらい楽しかった（小学生）
- ・ 初めての体験で楽しかった（70代）
- ・ もう少し、子どもに参加してほしい（60代、70代）
- ・ 久しぶりに楽しくおしゃべりができた（70代）
- ・ 作ったことがない折り紙/だまし舟、風船等を教えてもらい楽しかった、驚いた。（小学生、大学生）

○中部カフェで興味ある内容

- ・ 子ども教室（8票）：科学実験、体験学習
- ・ カルチャー教室（5票）：ハンドメイド
- ・ 防災教室（5票）：備蓄品等

○開催場所の希望

- ・ 中部小学校（11票）、福祉センターあいよる（18票）町会館（17票）

5 社会参加や助け合い活動の重要性の周知

①広報紙、リーフレットの作成・配布

- ・ 広報紙の作成 3回（令和7年7月、11月、令和8年2月）

機関名	機関数		機関名	機関数	
	新規	（再）		新規	（再）
民児協	4	0	警察署・交番	5	0
町会・自治会	18	0	自動車学校・試験場	2	0
公共施設・施設	14	4	銭湯	2	0
薬局	9	0	ホテル	1	0
医療機関	27	0	集合住宅	2	0
整骨院	1	0	ボランティア団体	2	0
郵便局	8	0	施設	3	0
金融機関	4	0	障がい事業所	2	0
スーパー	5	0	NPO法人	2	0
ドラッグストア	6	0	新聞店	2	0
コンビニ	19	0	個人商店	6	0
学校・学童	7	2	民間会社	4	1
寺院	1	1	その他	2	2

令和 8 年度 活動計画		
活動目標	計 画	評価指標

(ア) 第2層生活支援コーディネーター業務

事業内容

令和7年度活動評価

実績（実施回数、内容、実施方法等）

活動目標に対する評価

②ネットワーク構築

種別	回数	機関等
懇談会	24	
町会・地域 学校行事等	19	詳細は1-① ②を参照
民児協定例会	7	第4、5、8、9方面
運営推進協議会	25	圏域の地域密着型サービス事業所
出前講座	8	海岸町、元気サロン、 的場町・新川町在宅福祉委員会
認知症サポ- ーター養成講座	3	中央部第1圏域の住民 大森浜小学校（4年生） 新川町在宅福祉委員会
認知症カフェ おれんじの木	3	中央部第1圏域の住民、関係機関

6 第2層協議体による会議b

令和7年11月19日

テーマ	サロン活動をより楽しく継続しよう！
参加者	・地域住民（13人） 中央部第1圏域でサロン活動する9団体 ・介護サービス事業所（1人）
会場	特別養護老人ホーム松濤 7階 地域交流スペース
検討内容	①講話 「地域サロン活動で健康を維持しよう！」 合同会社ここから/理学療法士 岡嶋 大 氏 ②グループワーク、全体ワーク ・サロン活動を進める上での工夫点 ・サロン活動継続のためのアイデア ・サロン活動に対する意識、意見
今後の 方向性	○各サロンの情報交換は継続のために有効 ○助成金の活用、町会の周知活動等につい ては未実施のサロンで検討を予定 ○活動の課題はあるも、楽しく交流、健康 づくりできるので今後も継続する

7 元気サロンの継続支援

	後方支援（出前講座）/回	R7年度内参加者の増減
松風	0	4人→6人
千代台	0	12人→13人
金堀広野	0	10人→9人
堀川	4	21人→18人
新川	3	9人→11人
千歳	7	9人→8人
大縄	3	10人→7人
上新川	0	7人→5人
若松	4	15人→15人
的場（休止中）		

○元気サロン登録者数（令和8年3月末現在）92人

○後方支援内容

・活動計画、進行に関する相談、活動状況の把握

・外部講師調整（地域リハビリテーション活動支援事業等の活用）

・介護予防に関する制度等の情報提供

令和 8 年度 活動計画		
活動目標	計 画	評価指標

(ア) 第2層生活支援コーディネーター業務

令和7年度 活動評価	
事業内容	
実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価
8 第2層協議体による会議c 令和7年8月29日	
テーマ	みんなでつくる大森浜エリア 第1回目‘防災’
参加者	・民生委員（3人）・町会役員（6人） ・介護サービス事業所（3人） ・行政（1人）・自立相談支援機関（2人） ・第2層生活支援コーディネーター（1人） ・巴中学校教員（1人） ・巴中地域コーディネーター ・大森浜小学校教員（1人） ・大森浜児童館（1人）・救護施設（1人） ・障害者就労支援事業所（1人）
会場	大森浜児童館
検討内容	①話題提供 「大森浜エリア（※）のチカラと声」 ～こんな大森浜エリアがあるといいね～ ②グループワーク 「災害に備えるために助け合う関係づくり」 ・災害に備えて行っていること （主に、7月30日津波警報の振り返り） ・災害に備えるための課題
今後の 方向性	○大森浜エリアで取り組みたいこと 令和7年度中に大森浜児童館で防災イベ ントを開催する ○「みんなでつくる大森浜エリア」 多世代が関心・興味あることを題材に 話し合いやイベントで交流したい
※大森浜エリア：金堀町、広野町、日乃出町 高盛町、宇賀浦町、的場町	
9 まちづくり懇談会・意見交換	
1)令和7年4月17日、7月24日	
参加者：大森浜小学校地域コーディネーター	
内容：学校運営協議会、PTA活動、大森浜エリアの 住民のつながり	
2)令和7年7月29日	
参加者：大森浜児童館館長	
内容：大森浜児童館の活動と地域のつながり	
3)令和7年8月4日	
参加者：的場町役員（防災士）	
内容：大森浜エリアにおける防災に関する課題	
4)令和7年9月3日、18日、10月16日	
参加者：大森浜小学校教員、大森浜児童館、大森浜小地 域コーディネーター、第9方面民児協、高盛町会 金堀・広野町会、的場町会、市総務部災害対策課	
内容：「みんなで防災！チャレンジDAY」企画	
5)令和7年10月24日	
参加者：大森浜児童館、巴中地域コーディネーター 第9方面民児協	
内容：「みんなで防災！チャレンジDAY」振り返り	
10 大森浜エリア防災イベントの開催（令和7年10月20日）	
テーマ：「みんなで防災！チャレンジDAY」	
場所：大森浜児童館	
参加者：子ども18人、大人18人（うち高齢者8人）	
内容：講義「大森浜にも津波は来る」、演習/ダンボール ベッドの組み立て、災害備蓄品配布、質疑応答	

令和 8 年度 活動計画		
活動目標	計 画	評価指標

ウ 認知症総合支援事業

(ア) 認知症初期集中支援推進事業

(イ) 認知症地域支援・ケア向上事業

【根拠法令】介護保険法第115条の45第2項第6号

【目 的】認知症の人が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、認知症地域支援推進員を中心として、医療・介護等の連携強化等による、地域における支援体制の構築と認知症ケアの向上を図る。

事業内容	令和7年度 活動評価	
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価
認知症総合支援事業	(ア) 認知症初期集中支援推進事業 1 認知症初期集中支援チーム員として認知症と疑われる方への対応 0件 認知症初期集中支援チームの活用を検討したケース 1件	【活動目標】 認知症カフェおれんじの木に新たに参加する人が増える
	(イ) 認知症地域支援・ケア向上事業 2 認知症サポーター養成講座の開催 - 令和7年7月18日 14時～15時30分 新川町在宅福祉委員会 15名参加 - 令和7年8月26日 14時～15時30分 函館市中央部第一圏域住民 12名参加 内訳：一般市民4名、民生委員1名、郵便局員7名 - 令和8年2月10日 10時25分～12時 大森浜小学校 71名参加 3 認知症地域支援推進員連絡会活動 - 令和7年4月24日 第1回連絡会 - 令和7年5月15日 第2回連絡会 - 令和7年6月12日 第3回連絡会 - 令和7年7月31日 第4回連絡会 - 令和7年9月1日 第5回連絡会 - 令和7年9月30日 第6回連絡会 - 令和7年10月24日 第7回連絡会 - 令和7年12月22日 第8回連絡会 - 令和8年2月5日 第9回連絡会 - 令和7年11月30日 認知症サポーター養成講座 令和7年12月14日 ステップアップ講座 - 令和7年9月21日 17時～18時30分 2025世界アルツハイマー月間inはこだて 五稜郭タワーライトアップカウントダウンセレモニーへの参加 - 令和7年9月8日～26日 2025世界アルツハイマー月間inはこだて パネル展の開催 4 知ってあんしん認知症ガイドブック（認知症ケアパス）の普及活動 5 認知症カフェ「おれんじの木」の開催 主催：「おれんじの木」旗揚げ隊 （地域住民、居宅介護支援事業所、介護施設、地域密着型サービス事業所） ①令和7年6月11日 13時30分～15時 49名参加（うち認知症の人は0名） 28名が初参加（うち圏域外は2名） 場所：サービス付き高齢者向け住宅徳洲苑はこだて 2階 講師：あおい薬局松風店 薬剤師 熊川雅樹氏 テーマ：上手なお薬とおつきあいの仕方	【評価】 - 令和7年度中、認知症カフェを3回開催した。参加者が認知症の人と実際にふれあうことで、「認知症は大した病気ではないんですね」との声があり、新しい認知症観を実感してもらえたと考える。 - 認知症カフェは、認知症の人の外出や交流の機会、認知症の人を支える家族が気晴らしや悩みを吐き出す場、認知症の知識を得られる場として機能している。 - 地域住民、地域支援者、小学校の児童や教員に対し、認知症サポーター養成講座、ステップアップ講座を開催した。圏域全体に周知し、事業に関心を持った地域住民や関係機関が認知症カフェに参加するに至った。 - 総合相談業務で認知症に関する相談、質問を受けた時には、認知症ガイドブックを活用し、おれんじの木への参加の周知を図った。 - 認知症カフェの周知に力を入れた結果、初参加の人は令和7年度は60人で、令和6年度の27人より大幅に増加した。また、認知症の人の参加は令和6年度は1人だったが、令和7年度は10人と当事者の参加も大幅に増加したことから、目標は達成したと評価する。 圏域外からの参加者が徐々に増えており、認知症カフェが地域に浸透してきていると考える。今後も継続して旗揚げ隊メンバーとともに企画運営を行い、本人、家族の参加を促し認知症に関する多世代の居場所としたい。 - 認知症地域支援推進員連絡会等で各圏域のセンターが開催する認知症カフェについて情報交換を行い、地域住民や専門職等へ周知することでセンターの圏域を問わず、より気軽に認知症カフェに参加できるよう努めた。今後も地域全体で認知症の人を見守り、支え合う体制を築くことができるような地域住民を増やすことが必要と考える。認知症地域支援推進員としての活動を継続していく。

令和8年度 活動計画		
活動目標	計 画	評価指標
認知症カフェおれんじの木に認知症の人を支える家族の初参加数が増加する	1 多職種協働、関係者の連携を図るための取り組み ①認知症初期集中支援チーム員としての活動 ・ 認知症と疑われる方への早期対応 ・ 地域住民や関係機関、団体等に対し、支援チームの役割や機能について広報活動や協力依頼等を行い、普及啓発の推進に取り組む。 2 支援体制を構築するための活動 ①認知症サポーター養成講座の開催 ・ 民間企業、町会、一般市民、医療機関、学校等を対象に開催する。 ・ 認知症の初期症状や接し方等早期に異変に気づき、支援につなげ適切な支援を受けられることで、認知症の人が整った環境で可能な限り在宅生活を継続することができるようにする。 ・ 小学校、中学校に対し、認知症サポーター養成講座の紹介や開催の提案を行う。 ②普及啓発 ・ 認知症ガイドブック（認知症ケアパス）を広報紙とともに配布したり出前講座で取り扱う等、広く地域住民等へ周知できるよう積極的に活用する。 ・ 広報紙に認知症に関するテーマを毎月掲載する。 ・ 認知症サポーター養成講座や認知症カフェの開催についてリーフレットやチラシを配布し周知を行う。 ③個別ケースを検討する地域ケア会議の開催 ・ 認知症の人が地域で安心して生活していくために、有する課題の解決に向けて関係者で検討する。 3 認知症の人やその家族を支援するための活動 ①認知症カフェ「おれんじの木」の継続 ・ 認知症の人やその家族、学生、地域住民や専門職等が気軽に立ち寄り、思いを共有したり、人との関わりを持つことで、地域からの孤立を防ぐことができるようにする。 ・ 認知症予防や早期発見の大切さ、接し方、支援方法、地域での見守りの重要性についての周知したり、専門職から新しい認知症観（認知症になってからも、住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、自分らしく暮らし続けることができるということ）について助言、情報提供を行い、地域住民の認知症に対する理解を促進して認知症の人やその家族が住みやすい地域づくりを目指す。 ②総合相談、権利擁護ケースとしての対応 ・ 認知症の人を支える家族へ認知症カフェや認知症サポーター養成講座について情報提供し、参加を促す。 ③認知症地域支援推進員間での情報共有及び情報発信 ・ 認知症地域支援推進員連絡会等で、各圏域のセンターが開催する認知症カフェについて情報交換を行い、地域住民や専門職等へ周知することで、センターの圏域を問わずより気軽に認知症カフェへ参加できるように促す。	・ 認知症初期集中支援の支援数 ・ 認知症サポーター養成講座の開催数 ・ 認知症カフェの開催数及び内容 ・ 出前講座の開催数 ・ 本人や家族、地域支援者や地域住民等からの相談数 ・ 認知症に関する新規相談数 ・ 地域ケア会議の開催状況 ・ 認知症サポーター養成講座開催後の参加者の意見や感想等 ・ 認知症カフェ参加者内訳 ・ 認知症カフェ開催時の参加者の意見や感想等

事業内容	令和7年度 活動評価																																	
	実績（実施回数、内容、実施方法等）		活動目標に対する評価																															
認知症総合支援事業	②令和7年10月15日 13時30分～15時 31名参加（うち認知症の方は4名） 14名が初参加（うち認知症の方は4名、圏域外は2名） 場所：特別養護老人ホーム松濤 7階 講師：センター職員 テーマ：認知症の「真の予防」をみんなで知ろう ③令和8年2月18日 13時30分～15時 49名参加（うち認知症の方は6名） 20名が初参加（うち認知症の3名、圏域外は6名） 場所：特別養護老人ホーム松濤 7階 講師：平山医院 理学療法士 竹内光氏 テーマ：ココロもカラダもゆるめよう ～肩こり腰痛を予防する結果のでるストレッチ～																																	
	7 認知症地域支援推進員研修及び認知症に関する研修会への参加 - 令和7年8月22日 9時30分～17時30分 オンライン 令和7年8月23日 9時30分～17時30分 オンライン 令和7年度 認知症地域支援推進員研修 新任者研修 - 令和7年8月27日 9時30分～16時30分 オンライン 令和7年8月28日 9時30分～16時00分 オンライン 令和7年度 認知症地域支援推進員研修 現任者研修 - 令和7年8月8日 14時～15時45分 会場参加 三大認知症について 「疾患別の対応とコミュニケーションの取り方」 - 令和7年9月 全4時間 オンデマンド 高齢者虐待防止推進研修会 管理者編 「高齢者の尊厳を守るために管理者が行う認知症ケア」 - 令和7年10月7日 13時30分～17時 オンライン 北海道チームオレンジコーディネーター研修 - 令和7年10月6日～24日 全5時間20分 オンデマンド 令和7年度北海道高齢者虐待防止推進研修会 初任者編 - 令和7年12月 全4時間 オンデマンド 高齢者虐待防止推進研修会 現任者編 「認知症ケアから考える高齢者虐待防止の視点」																																	
	8 本人・家族支援 (件) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>R5年度</th><th>R6年度</th><th>R7年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合相談件数</td><td>1,909</td><td>1,582</td><td>1,724</td></tr> <tr> <td>うち認知症に関する相談件数</td><td>146</td><td>114</td><td>125</td></tr> <tr> <td>認知症に関する総合相談件数の割合</td><td>7.6%</td><td>7.2%</td><td>7.3%</td></tr> </tbody> </table> (件) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>R5年度</th><th>R6年度</th><th>R7年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合相談件数</td><td>1,909</td><td>1,582</td><td>1,724</td></tr> <tr> <td>うち家族、親族</td><td>831</td><td>655</td><td>729</td></tr> <tr> <td>家族、親族の相談者件数の割合</td><td>43.5%</td><td>41.4%</td><td>42.3%</td></tr> </tbody> </table>				R5年度	R6年度	R7年度	総合相談件数	1,909	1,582	1,724	うち認知症に関する相談件数	146	114	125	認知症に関する総合相談件数の割合	7.6%	7.2%	7.3%		R5年度	R6年度	R7年度	総合相談件数	1,909	1,582	1,724	うち家族、親族	831	655	729	家族、親族の相談者件数の割合	43.5%	41.4%
	R5年度	R6年度	R7年度																															
総合相談件数	1,909	1,582	1,724																															
うち認知症に関する相談件数	146	114	125																															
認知症に関する総合相談件数の割合	7.6%	7.2%	7.3%																															
	R5年度	R6年度	R7年度																															
総合相談件数	1,909	1,582	1,724																															
うち家族、親族	831	655	729																															
家族、親族の相談者件数の割合	43.5%	41.4%	42.3%																															

令和 8 年度 活動計画		
活動目標	計 画	評価指標

事業内容	令和7年度 活動評価	
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価
認知症総合 支援事業	○個別ケースを検討する地域ケア会議の開催件数 認知症に関するケース: 3件 ①令和7年6月27日 場所：堀川町会館 テーマ：本人が家事等の危険性がない環境で安全に生活するために 参加者：3名(町会、在宅福祉委員、ケアマネジャー) ②令和7年7月23日 場所：松川町会館 テーマ：これからも自宅で暮らしていくために 参加者：8名(本人、家族、町会役員、在宅福祉委員、ケアマネジャー、生活支援課、高齢福祉課) ③令和7年12月25日 場所：若松町会館 テーマ：Tさんの今後の暮らしに関する話し合い 参加者：6名(民生委員、ケアマネジャー、通所介護、訪問介護、訪問看護)	

令和 8 年度 活動計画		
活動目標	計 画	評価指標